

平成 18 年 3 月 31 日

独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構 平成 18 年度 年度計画

独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下「機構」という。）は、独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 31 条第 1 項の規定に基づき、国土交通大臣の認可を受けた平成 17 年 10 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日までの期間における機構の中期目標を達成するための計画に基づいた平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日までの期間における業務運営に関する計画（以下「年度計画」という。）を以下のとおり定める。

I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 組織運営の効率化

必要最小限の組織として設置した総務部、経理部、企画部、関西業務部の 4 部により、組織運営の効率化に努める。

2 業務リスクの管理

的確な業務リスクの管理を行うため、以下の取組を徹底する。

- ① 平成 18 年 3 月 31 日付けで締結した協定に基づき作成した業務実施計画における機構の収支予算の明細（以下「償還計画」という。）を踏まえ、金利、交通量等の変動を常時注視し、債務返済の見通しについて、できる限り定量的に把握することを通じて、適切な債務の残高の管理に努める。

また、大規模な災害の発生その他社会経済情勢の重大な変化があり、これに対応して協定を変更する必要があると認めるとき又は貸付料の額若しくは会社が徴収する料金の額が、法第 17 条に規定する貸付料の額の基準若しくは道路整備特別措置法（昭和 31 年法律第 7 号。以下「措置法」という。）第 23 条に規定する料金の額の基準に適合しなくなったと認める場合その他業務等の適正かつ円滑な実施に重大な支障が生ずるおそれがある場合においては、必要に応じて、会社と協議の上、協定を変更するなど、適切な措置を講ずる。

- ② 債務返済に係る借換資金の安定的確保や金利コストの低減のため、調達が多様化など、適切な措置を講ずる。

3 業務コストの縮減

外部委託、集約化、IT の活用等により業務運営全体の効率化を推進するとともに、市中金利の動向を踏まえた上で安定的に低利での資金調達を行うことにより、業務コス

トを可能な限り縮減する。このうち、一般管理費（退職手当を除く人件費を含む。）については、平成17年度の当該経費相当額を標準的な年間当たり経費に換算した額と比較して1%を上回る削減を行う。

4 積極的な情報公開

次に掲げる取組を実施することにより、当面可能な限りの情報公開を行うとともに、公開内容の充実を図る。

① 財務内容の公開

平成17年度に係る財務諸表等を公開する。

その際、セグメント情報もホームページに掲載する。

また、債券の発行に伴い作成する債券説明書については、ホームページに掲載する。

② 資産の保有及び貸付状況の公開

ホームページで公開している「道路資産の保有及び貸付状況」を更新する。

③ 費用の縮減状況等の公開

高速道路の新設、改築及び修繕に関するコスト縮減の情報について、該当する工事の債務引受額、コスト縮減額、助成額及び会社の経営努力の内容を公表する。

また、会社の協力を得て、会社が行う高速道路の維持、修繕その他の管理に要する費用の縮減の内容及び利便性の向上を示す客観的な指標を公表する。

④ 評価及び監査に関する事項

年度業務実績評価、政策評価の機構に関する部分、行政監察結果等について、ホームページで情報の提供を行う。

⑤ ホームページ等の充実

上記①から④の情報提供に当たっては、各事務所に備え置き一般の閲覧に供するほか、ホームページに掲載する。また、ホームページを重要な情報の提供手段として位置付け、内容を充実し、利用者にとって価値のある情報の提供を行う。なお、英語版についても、可能な限り迅速な更新に努める。

⑥ 業務パンフレット等による広報

機構の目的や業務の内容について、パンフレット等を活用することにより、情報の提供を行う。

5 業務評価の実施

業務の効率性及び透明性の向上を図るため、業務全体について自己評価を行い、その結果を公表する。また、その結果を踏まえ、必要に応じて、適切な措置を講ずる。

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

機構は、協定に基づき、会社と連携協力しつつ、以下に掲げる高速道路に係る道路資産の保有及び貸付け、債務の返済等の業務を適切に実施する。

1 高速道路に係る道路資産の保有、貸付け

- ① 道路資産台帳を適切に更新することにより、機構が保有し、会社に貸し付けている高速道路に係る道路資産の内容を適正に把握する。
- ② 貸し付けた道路資産の維持、修繕その他の管理の実施状況について、会社から報告を受けるものとし、必要に応じて実地に確認を行う。また、高速道路の管理に関する客観的な指標（アウトカム指標）を公表する。

2 承継債務及び会社から引き受けた債務の早期の確実な返済

- ① 承継債務及び会社から引き受けた債務の早期の確実な返済を実施するため、償還計画を踏まえ、次に掲げる点に留意し、債務の管理を適切に実施することとし、機構の有利子債務残高について、平成 18 年度末時点において 35.5 兆円に減少させる。
 - 1) 高速自動車国道及び本州四国連絡高速道路（道路会社法第 5 条第 2 項第 6 号に定める高速道路をいう。以下同じ。）に係るそれぞれの有利子債務については、平成 18 年度末における機構の債務の残高が民営化時点における承継債務の総額を上回らないこと。
 - 2) 首都高速道路（道路会社法第 5 条第 2 項第 2 号に定める高速道路をいう。以下同じ。）、阪神高速道路（道路会社法第 5 条第 2 項第 5 号に定める高速道路をいう。以下同じ。）並びに高速自動車国道、首都高速道路、阪神高速道路及び本州四国連絡高速道路以外の高速道路に係るそれぞれの有利子債務については、平成 18 年度末における機構の債務の残高が民営化時点における承継債務の総額を極力上回らないよう努めること。
- ② 債務の返済に充当する道路資産の貸付料及び機構が収受する占用料その他の収入の確保を図り、一方で、低利での円滑な資金調達に努めるなど、徹底した業務コストの縮減を進め、債務返済以外の支出を抑制することとする。
- ③ 償還計画を踏まえ、金利、交通量等の変動を常時注視し、債務返済の見通しについて、できる限り定量的に把握することを通じて、適切な債務の残高の管理に努める。

3 会社が高速道路の新設、改築、修繕又は災害復旧に要する費用に充てるために負担した債務の引受け

- ① 債務引受限度額を見直す場合には、見直し前の額を基準に、その算出の基礎となった工事の内容、物価又は金利等の条件の変動状況を考慮し、適正な額を設定する。
- ② 会社から債務を引き受ける際には、対象となる道路資産に対し、当該引受額が適正な

額であることを十分に確認する。

③ 道路資産が機構に帰属する場合には、当該道路資産の内容の確認を適正に実施する。

4 会社に対する首都高速道路又は阪神高速道路の新設、改築又は修繕のための無利子貸付け

国又は首都高速道路若しくは阪神高速道路に係る出資地方公共団体から首都高速道路又は阪神高速道路の新設、改築又は修繕のための出資金又は補助金が交付された場合には、会社による事業が速やかに実施されるよう、国、当該出資地方公共団体及び会社と協力し、効率的な事務手続に努めることとし、遅滞なく会社に対し無利子貸付けを実施する。

5 会社に対する災害復旧のための無利子貸付け

国又は首都高速道路若しくは阪神高速道路に係る出資地方公共団体から災害復旧に要する費用に充てる資金の一部に充てるべきものとして補助金が交付された場合には、会社による速やかな災害復旧及び安全かつ円滑な交通の確保に資するよう、国、当該出資地方公共団体及び会社とも協力し、効率的な事務手続に努めることとし、遅滞なく会社に対し無利子貸付けを実施する。

6 高速道路の新設、改築、維持、修繕その他の管理に要する費用の縮減を助長するための仕組み

平成 18 年 3 月 31 日付けで締結した協定に基づき、会社の経営努力による高速道路の新設、改築及び修繕に要する費用の縮減を助長するための仕組みの適正な運用を図る。

なお、同協定においては、貸付料の額を固定すること（料金収入の実績による増減を除く。）により、維持、修繕その他の管理に要する費用（債務引受額に係るものを除く。）の縮減が直接会社の業績に反映される仕組みとなっている。

7 道路整備特別措置法に基づく道路管理者の権限の代行その他の業務

道路整備特別措置法（昭和 31 年法律第 7 号）に基づく道路管理者の権限の代行その他の業務について、現地の状況を熟知している会社その他の関係機関と密接な連携を図りつつ、通行止め等の行政措置を遅滞なく実施する。

また、道路占用又は高速道路への連結の許可に当たっては、適切な道路管理を確保しつつ、道路を利用した国民へのサービス向上が図られるよう、制度の適切な運用に努める。

なお、その事務手続の在り方については、継続的に点検を行い、必要に応じて見直しを実施する。

8 本州四国連絡鉄道施設に係る業務

- ① 本州と四国を連絡する鉄道施設（以下「本州四国連絡鉄道施設」という。）について、鉄道事業者から当該施設の管理費用等に充てるために必要な利用料を確実に徴収し、本州四国連絡高速道路株式会社の協力を得て、安全かつ円滑な列車の運転を確保するため必要な当該施設の管理を行う。
- ② 本州四国連絡鉄道施設について災害が発生したときは、本州四国連絡高速道路株式会社の協力を得て、速やかな復旧を行う。

9 業務遂行に当たっての取組

業務遂行に当たっては、以下の取組を実施する。

- ① 国及び出資地方公共団体並びに会社との緊密な連携の推進
国及び出資地方公共団体並びに会社の協力を得て、円滑に業務を実施するため、これら関係機関と積極的に情報及び意見の交換を行うなど、緊密な連携を図る。
- ② 高速道路の利用促進
平成 18 年 3 月 31 日付けで締結した協定に基づき、必要な高速道路網の整備やインターチェンジ拡充等を図る。
さらに、多様で弾力的な料金施策等、より高速道路の利用を促進する施策を推進するよう会社に促す。
- ③ 高速道路事業に関する新技術の開発等の促進
費用の縮減を助長するための仕組みを通じて、会社に対し、高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理に当たってのコスト縮減、安全性や資産価値の向上等を図るための新技術の開発等を促す。
- ④ 環境への配慮
環境への負荷の低減に配慮した調達を推進する。
なお、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成 12 年法律第 100 号）に基づく「平成 18 年度における環境物品等の調達の推進を図るための方針」を策定し、環境物品等の調達を行うこととし、特定調達品目については、国が定めた「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」に規定された判断の基準を満たしたもの（特定調達物品等）を 100%調達する。
また、会社に対し、高速道路の整備や料金施策等の実施に際して、環境の保全と創出に配慮するよう促す。
- ⑤ 危機管理
地震、風水害、大規模な交通事故等により高速道路の供用に重大な影響を与える事態が発生した場合には、会社及び関係行政機関と協力して、防災業務計画等に基づき、迅速かつ的確な情報収集及び伝達等の措置を講ずる。
また、会社及び関係行政機関と連携し、当該事態を想定した訓練を実施するととも

に、災害に備えた機構独自の非常時参集訓練（不定时）等を適宜実施することにより、発災時に備える。

Ⅲ 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 財務体質の強化

債務の早期の確実な返済を図るため、次の取組を実施する。

- ① 債務の計画的な返済に必要な毎事業年度の貸付料は、機構債務の返済財源の大半を占めることから、平成 18 年 3 月 31 日付けで締結した協定に基づき確実に貸付料を収受するなど、業務活動による収入の確保を図る。
- ② 安定的に低利での円滑な資金調達に努めるなど、調達資金に係る金利コストを低減させるとともに、徹底した業務コストの縮減を進め、債務返済以外の支出を抑制する。

2 予算（別表 1 のとおり）

3 収支計画（別表 2 のとおり）

4 資金計画（別表 3 のとおり）

Ⅳ 短期借入金の限度額

一時的な資金不足等に対処するため、短期借入金の限度額は、単年度 9,600 億円とする。

Ⅴ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

該当なし

Ⅵ 剰余金の使途

剰余金は予定していない

Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設及び設備に関する計画

該当なし

2 人事に関する計画

① 方針

- 1) 個々の職員の勤務成績及び法人の業務実績を処遇に反映させるとともに、機構職員に必要な業務リスク管理等の知識及び能力の養成に努める。
- 2) 人員の適正な配置により業務運営の効率化を図る。

② 人員に関する指標

常勤職員数は90人を上回らないものとする。

③ 人件費に関する指標

「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日閣議決定）を踏まえ、退職手当等を除く人件費については、平成17年度の当該経費相当額を標準的な年間当たり経費に換算した額を上回らないものとする。

④ 給与体系の見直し

本給表の見直し等、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを進める。

日本高速道路保有・債務返済機構年度計画の予算等(平成18年度)

【総表】

別表1 予算

(単位:百万円)

区分	金額
収入	
業務収入	1,936,872
道路業務収入	1,935,789
鉄道業務収入	1,083
政府等出資金受入	132,700
政府等補助金受入	22
債券及び借入金	2,715,000
社会資本整備事業収入	1,214
業務外収入	12,200
計	4,798,008
支出	
債務返済費	4,598,156
東京湾横断道路償還金	91,860
無利子貸付金	52,700
経営努力助成金	1,200
業務管理費	2,993
高速道路管理費	1,795
鉄道施設管理費	1,198
一般管理費	2,247
人件費	1,121
物件費	1,126
業務外支出	70,834
計	4,819,990

【人件費の見積り】

期間中総額976百万円を支出する。

ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当に相当する範囲の費用である。

(注)単位未満端数四捨五入のため、計において一致しないことがある。

別表2 収支計画

(単位:百万円)

区分	金額
費用の部	1,548,653
経常費用	1,548,653
道路貸付業務費	894,868
助成業務費	1,143
鉄道施設利用業務費	10,754
一般管理費	2,203
人件費	1,130
経費	1,073
財務費用	632,603
道路資産取得関連費用	7,072
雑損	10
臨時損失	0
収益の部	1,854,449
経常収益	1,854,342
受取貸付料	1,839,948
占用料収入	1,635
連結料収入	2,104
受取施設利用料	1,008
その他の売上高	25
補助金等収益	22
資産見返負債戻入	0
鉄道施設建設見返債務戻入	9,600
財務収益	0
雑益	0
臨時利益	107
当期純利益	305,796
当期総利益	305,796

(注)単位未満端数四捨五入のため、計において一致しないことがある。

別表3 資金計画

(単位:百万円)

区分	金額
資金支出	4,875,521
業務活動による支出	721,833
管理費支出	76,183
その他支出	645,650
投資活動による支出	52,700
財務活動による支出	4,045,566
次期への繰越金	55,422
資金収入	4,875,521
業務活動による収入	1,917,558
投資活動による収入	18,471
財務活動による収入	2,847,700
前期よりの繰越金	91,792

(注1)単位未満端数四捨五入のため、計において一致しないことがある。

日本高速道路保有・債務返済機構年度計画の予算等(平成18年度)

【高速道路勘定】

別表1 予算

(単位:百万円)	
区分	金額
収入	
業務収入	1,935,789
道路業務収入	1,935,789
政府等出資金受入	132,700
政府補助金受入	0
債券及び借入金	2,715,000
社会資本整備事業収入	1,214
業務外収入	12,200
計	4,796,903
支出	
債務返済費	4,598,156
東京湾横断道路償還金	91,860
無利子貸付金	52,700
経営努力助成金	1,200
業務管理費	1,795
高速道路管理費	1,795
一般管理費	2,239
人件費	1,117
物件費	1,122
業務外支出	70,834
計	4,818,784

【人件費の見積り】

期間中総額973百万円を支出する。

ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当に相当する範囲の費用である。

(注)単位未満端数四捨五入のため、計において一致しないことがある。

別表2 収支計画

(単位:百万円)	
区分	金額
費用の部	1,537,891
経常費用	1,537,891
道路貸付業務費	894,868
助成業務費	1,143
一般管理費	2,195
人件費	1,126
経費	1,069
財務費用	632,603
道路資産取得関連費用	7,072
雑損	10
臨時損失	0
収益の部	1,843,687
経常収益	1,843,687
受取貸付料	1,839,948
占用料収入	1,635
連結料収入	2,104
その他の売上高	0
補助金等収益	0
資産見返負債戻入	0
財務収益	0
雑益	0
臨時利益	0
当期純利益	305,796
当期総利益	305,796

(注)単位未満端数四捨五入のため、計において一致しないことがある。

別表3 資金計画

(単位:百万円)	
区分	金額
資金支出	4,872,896
業務活動による支出	720,627
管理費支出	74,977
その他支出	645,650
投資活動による支出	52,700
財務活動による支出	4,045,566
次期への繰越金	54,003
資金収入	4,872,896
業務活動による収入	1,916,372
投資活動による収入	18,471
財務活動による収入	2,847,700
前期よりの繰越金	90,353

(注)単位未満端数四捨五入のため、計において一致しないことがある。

日本高速道路保有・債務返済機構年度計画の予算等(平成18年度)

【鉄道勘定】

別表1 予算

(単位:百万円)	
区分	金額
収入	
業務収入	1,083
鉄道業務収入	1,083
政府等補助金受入	22
業務外収入	0
計	1,105
支出	
業務管理費	1,198
鉄道施設管理費	1,198
一般管理費	8
人件費	4
物件費	4
業務外支出	0
計	1,206

【人件費の見積り】

期間中総額4百万円を支出する。
ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当に相当する範囲の費用である。

(注)単位未満端数四捨五入のため、計において一致しないことがある。

別表2 収支計画

(単位:百万円)	
区分	金額
費用の部	10,762
経常費用	10,762
鉄道施設利用業務費	10,754
一般管理費	8
人件費	4
経費	4
財務費用	0
雑損	0
臨時損失	0
収益の部	10,762
経常収益	10,655
受取施設利用料	1,008
その他の売上高	25
補助金等収益	22
資産見返負債戻入	0
鉄道施設建設見返債務戻入	9,600
財務収益	0
雑益	0
臨時利益	107
当期純利益	0
当期総利益	0

(注)単位未満端数四捨五入のため、計において一致しないことがある。

別表3 資金計画

(単位:百万円)	
区分	金額
資金支出	2,625
業務活動による支出	1,206
管理費支出	1,206
その他支出	0
投資活動による支出	0
財務活動による支出	0
次期への繰越金	1,419
資金収入	2,625
業務活動による収入	1,186
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0
前期よりの繰越金	1,439

(注)単位未満端数四捨五入のため、計において一致しないことがある。